

② 実績・成果

指標名称(前期)		H28(前期1)		H29(前期2)		H30(前期3)		R1(前期4)		R2(前期5)		R3(後期1)		R4(後期2)		R5(後期3)		R6(後期4)		R7(後期5)	
		数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位	数量	単位
主な活動指標	目標	460	人	460	人	460	人	460	人	460	人	460	人	460	人	460	人	460	人	460	人
	実績	349	人	370	人	360	人	378	人	340	人	346	人	361	人	356	人	343	人		人
	達成度	76	%	80	%	78	%	82	%	74	%	75	%	78	%	77	%	75	%	0	%
	※数値化できない活動内容や指標の変更等について記載する																				
想定対象者数計算方法 第一号被保険者 1,600人 65歳以上の非認定者割合 78% 高齢者の非運転者割合 37% 1600人×0.78×0.37=461.76人≒460人																					
主な成果指標	目標	349	人	370	人	360	人	378	人	340	人	346	人	361	人	356	人	343	人	310	人
	実績	186	人	176	人	190	人	189	人	146	人	184	人	190	人	180	人	170	人		人
	達成度	53	%	48	%	53	%	50	%	43	%	53	%	53	%	51	%	50	%	0	%
	※数値化できない成果や指標の変更等について記載する																				

4 事業の評価 (Check)

評価項目	評価の視点	評価結果	説明
妥当性	実施主体・目的・対象・手段等は公平かつ妥当か?	A	高齢者の自主的な社会参加を目的としており、高齢者の外出のためにバスの必要性は高くバス代の負担軽減を図る事業であるため妥当である。
有効性	期待された成果が得られたか?	B	配布者数に対する利用者数の割合が5割程度にとどまっており、有効性はやや低い。
効率性	コスト面からみた費用対効果は適正か?	A	定期的な買い物や通院の際に必要なバス代金の支援であり、使用実績に応じて精算しているため費用対効果は適正である。

※評価結果は、A:妥当である B:概ね妥当である C:あまり妥当でない D:妥当でない で評価する

5 今後の方向性・課題・改善提案等 (Action)

予算	継続(現状維持)	サービス	継続(現状維持)	方向性	現状維持
理由	本事業により高齢者の定期的な外出意欲が高まり、社会参加ができています。高齢者の社会参加を維持することで、認知症や要介護予防にも繋がります。				
課題および改善提案	利用者が固定化されてきており、交付枚数全てを使う方は限られている。交付方法も含め利用者や利用枚数が増えるような取り組みが必要。また、次年度より路線バス以外の交通モードの利用や、他の外出支援を含めた利益性の拡充など事業の見直しを行う予定。				

※予算・サービスは「継続(拡大・現状維持・縮小)」および「終了」から、方向性は「拡大」「現状維持」「縮小」「終了」から選択する。

6 内部評価(本欄は、内部評価委員会で使用するため事業担当課は入力しないでください。)

予算	継続(現状維持)	サービス	継続(現状維持)	方向性	現状維持	意見
						町内には官民の様々な交通モードやサービスが展開されているので、それらと組み合わせるサービス向上を図る必要がある。サービス向上が図られる一方で、受益者負担の観点で金額の妥当性についても検証する時期にきているのではないかと。

7 外部評価(本欄は、外部評価委員会で使用するため事業担当課は入力しないでください。)

評価実施年月日	R 8 年 1 月 27 日	予算	継続(現状維持)	サービス	継続(拡大)	方向性	拡大
付帯意見(全体意見)	<ul style="list-style-type: none"> ○利用率は5割程度で推移しているが、必要な高齢者が適切に利用できる環境整備が重要である。 ○高齢者の外出支援と社会参加促進において重要な役割を果たしている事業である。 ○令和8年度からのお出かけバス導入により、バス・タクシー・デマンドバスを一体的に利用できる仕組みづくりが期待される。 ○利用実態の把握と効果測定のため、データ分析を強化することが必要である。 ▶以上から、予算を現状維持とし、サービス・方向性を拡大のうえ事業を継続することが望ましい。 						
その他意見(個別意見)	<ul style="list-style-type: none"> ○路線バスとデマンドバスを組み合わせた効果的な利用方法について、町民への周知を強化することが望ましい。 ○介護予防事業や入浴券との組み合わせなど、他事業との連携強化が期待される。 ○利用率の数値目標ではなく、真に支援が必要な高齢者への到達度を評価する指標の検討が望ましい。 						

8 外部評価に対する町の考え方

回答年月日	R 8 年 3 月 18 日
	<ul style="list-style-type: none"> ○令和8年度からはお出かけバス導入により、必要な高齢者が適切に利用できるような仕組みや環境を整え、支援が必要な方が困らないようにしてまいります。 ○お出かけバスの利用方法については、広報やイベントと腕の説明会など町民への周知を強化してまいります。